

調査研究

教育大生の保育者観，子ども観

大 滝 まり子

Education University Students' Views of
Nursery School Teachers and Children

Mariko OHTAKI

1 目 的

幼児教育学科においては、保育士や幼稚園教諭などの保育の専門職を養成するため、十分に検討した教育課程を組んでいる。しかし一般には、保育職は誰にでもできる専門性が低い仕事で、仕事の内容も「もっぱら子どもと遊ぶこと」と考えられる傾向がある。保育において遊びが重視されているのは確かであるが、保育の仕事は必ずしも簡単なことではない。ところが、遊びの大切さが軽視されている以上に、保育者に求められる資質条件や、乳幼児理解の必要性、保育技術の意味などにはあまり関心が払われていない。その一方で、乳幼児のことは分かりにくい、扱いにくいと感じる者も少なくないようである。

これは、少子化が進んで子どもがもはや身近な存在ではなくなったため、「乳幼児のことはあまりよく分からないが、幼い子どものことだ

から、大人なら誰だって何とか扱えるだろう」と考えられていることの現われなのかも知れない。

保育や保育職についてのこうした受け止め方は、小学校や中学校の教諭を目指す学生にも見られる傾向である。特に幼稚園教諭免許が副免であることから、保育職を独立した専門職として捉える意識が薄いようで、これは筆者が北海道教育大学札幌校（以下教育大）で担当する幼児教育関係科目の答案や提出物に、散見される見方である。

そこで本研究では、教育大生を対象に、保育と小学校教育についてどのような捉え方の違いがあるのかを調査し、今後、乳幼児期の重要性和保育の意義を理解できるような授業内容の構成に役立てたいと考える。

2 方 法

教育大で、2003年度後期に筆者が担当する幼児指導法を受講中の39名に対して講義時間中に質問紙調査を実施し、記入後直ちに回収した。また、同じく教育大で心理学を受講する学生31名に、質問紙調査を実施した。対象者は以上の70名で、保育関係の科目の受講経験がある学生は、44名(62.9%)であった。

調査内容

戸田まり(2000)と共同で作成した質問紙を基本とし、今回は新たに小学校の教育に関する項目を加えた。

子どもと接した経験

大学入学前にどの程度子どもとのかかわりを経験しているか検討した。(1)中学生以前に赤ちゃんや幼児と接したことがあるか (2)中学卒業以降には子どもとどのくらい接したことがあるか a. 1歳前の赤ちゃんと b. 幼稚園児くらいの子と c. 小学生と 以上の4つの項目ごとに、接し方を4~5種類提示した中から選ぶよう求めた。

幼児のイメージ

「幼児」という言葉を聞いたとき、どんなイメージを思い浮かべるか、対になった22組の言葉を見て、7段階(左端の語の1:非常に から 右端の語の7:非常に)のイメージに合うところに○をつけるよう求めた。「幼児」は3~6歳くらいの子どものみを想定するよう付記した。

幼児教育についての考え

幼児教育及び幼児に関する文章を10提示し、それぞれについての考えを6段階(1:非常に そう思う から 6:全くそう思わない)の当てはまるところに○をつけるよう求めた。

小学校教育についての考え

上記の「幼児教育についての考え」に対応する内容6項目を含む11の文を提示し、幼児教育に関する質問と同様に、6段階での答えを求めた。

保育者として大切な資質

保育者(幼稚園教諭や保育所の保育士)にとって大切なものは何だと思うか、専門的知識、ピアノなど30項目提示し、それぞれについて「非常に大切」から「全く大切でない」までの6段階で答えを求めた。

小学校教員として大切な資質

「保育者として大切な資質」と同じく30項目を提示し、同じく6段階で答えを求めた。ただし、11番目の問に不備があり、結果の表から除いてある。

自己観

① 保育に関する今の自分の自己評価

保育についての文章を15提示し、今の自分がどのくらい指導・援助できるか、6段階(1:非常にそう思う から 6:全くそうは思わない)で評価するよう求めた。「子ども」は3~6歳を想定するよう付記した。

② 小学生の指導に関する今の自分の自己評価

小学生の指導についての質問で、内容は①にほぼ対応しており、6段階の評価をするよう求めた。ただし、「基本的生活習慣のしつけ」については幼児期独特の問題であるため、小学校教育に関する質問では、行儀や礼儀のしつけに変えてある。

③ 子どもを見てどう思うか

日常的に目にする子どもの行動や様子への対応を表現した文を7つ提示し、自分がどのように感じたりどのように行動するかを、6段階で答えるよう求めた。

3 結果と考察

(1) 子どもと接した経験

図1～図4は，子どもと接した経験の割合を示している。中学生以前は，自分自身が子どもであり，きょうだいがいれば，年齢も接近していることが多いので，近所の子どもの交流も含め，日常的に乳幼児と接していた者が約48.6%，「ほとんど接したことがない」者は22.9%であった。筆者の前号の報告（2003）では，幼児教育学科の1，2年生では，「ほとんど接したことがない」のは12%であった。

一般的に，きょうだいの年齢差や生活時間の違いを考えると，中学卒業以降は日常的に乳児と接することは極めて少ないと思われる。調査結果でも，世話をするような経験は赤ちゃんについて8.6%，幼児について2.9%であった。ほ

とんど接したことがない者は64.2%にのぼり，幼児教育学科学生の38.5%（大滝他，前掲）と大きな差がある。ただ最近では，中学生や高校生が授業の一環で幼稚園や保育所を訪問することも増えてきているので，「一緒に遊んだ」，「一緒にいた」という経験も含め，乳幼児と接した経験の中には，そのような少ない回数の学校の活動が含まれている可能性がある。

中学卒業以降は，乳幼児との経験は減少し，乳児と接したことがないものは64.2%，幼児と接したことがない者は40%であるが（図2，3），一方小学生と接する経験は77.1%に達している（図4）。本質問紙では実習経験や附属小学校との交流について質問していないが，「一緒に遊んだことがある」，「勉強を教えたことがある」などの密接な係わりあいの合計が67.4%であった。

図には示さなかったが，中学卒業以降，乳幼

図1 中学生以前 乳幼児と接した経験

人数，()は%			
弟や妹がいたので日常的に 24人 (34.3%)	近所の乳幼児と 10 (14.3)	親戚やよその子と時々 20 (28.5)	ほとんど接したことがない 16 (22.9)

図1～図4はn=70

図2 中学卒業以降 1歳前の赤ちゃんとの接した経験

世話はしないが一緒に遊んだ 17人 (24.3%)	ほとんど接したことがない 45 (62.4)
おむつを替えたり食事させた 6 (8.6)	遊ばないが一緒にいた 2 (2.9)

図3 中学卒業以降 幼稚園くらいの子と接した経験

世話はしないが一緒に遊んだ 39人 (55.7%)	ほとんど接したことがない 28 (40.0)
着替えや食事の世話をした 2人 (2.9%)	遊ばないが一緒にいた 1 (1.4)

図4 中学卒業以降 小学生と接した経験

一緒に遊んだことがある 41人 (58.8%)	ほとんど接したことがない 16 (22.9)
勉強を教えたことがある 6 (8.6)	話をしたことがある 5 (7.1)
	一緒にいたことがある 2 (2.9)

児,小学生のどちらとも「ほとんど接したことがない」者は11名であった。また,この11名中6名は,中学生前も乳幼児とほとんど接したことがなかった。

(2) 幼児のイメージ

幼児のイメージを左端に近い1,2点台と,右端に近い5点台以上に分けて見ると,幼児のイメージの捉え方の特徴が浮かび上がる(表1)。1点台は「純粋な...不純な」,「可愛い...にくらしい」,「やわらかい...硬い」である。2点台は「天使のような...悪魔のような」,「あた

たかい...冷たい」,「丸い...細長い」,「まっすぐな...曲がっている」,「うるさい...静かな」,「自由な...不自由な」,「生意気な...おとなしい」である。また5点台は「安定している...不安定な」,「大きい...小さい」,「高い...低い」となっている。

幼児は「純粹」で「可愛い」が,「うるさく」,「生意気」で「不安定」であるということから,どう接してよいか戸惑っている学生の姿が見えるのではないだろうか。また4点台ではあるが「理解しにくい」,「弱い」,「激しい」と感じている傾向も示された。

表1 「1 非常に」から対概念の「7 非常に」まで7段階の評価

イメージを表す対語	評価段階ごとの人数 n=70							平均
	非常に	かなり	少し	少し	かなり	非常に		
	1	2	3	4	5	6	7	
1 単純な.....複雑な	1	14	18	14	13	9	1	3.78
2 理解しやすい...理解しにくい	0	1	13	19	21	15	1	4.55
3 はっきりした...はっきりしない	4	14	18	18	12	4	0	3.45
4 純粋な.....不純な	24	34	11	1	0	0	0	1.84
5 天使のような...悪魔のような	5	25	27	11	2	0	0	2.71
6 可愛い.....にくらしい	41	20	6	2	0	1	0	1.61
7 安定している...不安定な	0	0	3	11	26	22	8	5.3
8 やわらかい.....硬い	25	28	13	4	0	0	0	1.94
9 優しい.....厳しい	5	17	18	25	5	0	0	3.11
10 強い.....弱い	0	2	9	18	18	20	3	4.77
11 あたたかい.....冷たい	13	27	18	10	2	0	0	2.44
12 大きい.....小さい	1	0	1	8	15	25	20	5.72
13 丸い.....細長い	16	22	20	10	1	1	0	2.44
14 高い.....低い	0	0	3	18	17	21	11	5.27
15 太い.....細い	1	6	13	33	13	4	0	3.9
16 まっすぐな.....曲がっている	12	30	19	7	2	0	0	2.38
17 うるさい.....静かな	14	21	25	10	0	0	0	2.44
18 たくましい.....ひ弱な	10	9	12	24	12	3	0	3.4
19 おだやかな.....激しい	0	3	5	20	21	14	7	4.84
20 自由な.....不自由な	11	28	18	8	3	2	0	2.57
21 生意気な.....おとなしい	4	14	34	17	1	0	0	2.95
22 身近な.....遠い	4	11	16	23	12	2	2	3.6

(3) 幼児教育についての考え

教育大生は「幼児は担任の影響を受けやすく」(2.2)、「保育者への向き・不向きはある」(2.15)と考えている。けんかについては 65人(92.9%)が「見つけたら、すぐに介入しやめさせるべき」だと考えず(4.65)、57人(81.4%)が「危険でない限り見守るほうがよい」(2.91)としている。また59人(84.3%)が「乳幼児期に身につけたことは大人になっても変わらない」と、乳幼児期の大切さを認めているが(2.87)、58人(82.9%)が「放任より厳しいしつけの方がよい」とは考えていなかった(4.21)。

(4) 小学校教育についての考え

教育大生は、64人(91.4%)が「小学生は担任の影響を受けやすい」と考えている。また「教師への向き・不向きはある」と考える者は66人(94.3%)いた。いじめについては「少しでも

早くやめさせるべきだ」とする者が55人(78.6%)いるが、そうは考えない者が15人(21.4%)おり、「いじめられる方に原因がある場合もあるので、しばらく見守る」という者も11人(15.7%)である。「いじめは絶対に悪い」と理解しなければ、いじめは決してなくなるであろう。教員を目指す学生たちには、いじめは許さないという判断をして欲しかった。

「学級崩壊」(3.45)については42人(60%)が保育所や幼稚園、または家庭の責任であると考えている。実際の原因が何かはまだ明らかにされていないが、学生の判断の根拠に関心を持った。

次に「幼児教育についての考え」と「小学校教育についての考え」で対応する質問についての「考え」を比較するため検定を行い、結果を表4に示した。

表2 幼児教育についての考え

質 問 文	評価段階ごとの人数 n=70						平均
	そ う 思 う			そうは思わない			
	非常に 1	かなり 2	まあ 3	あまり 4	ほとんど 5	全く 6	
子どもが冒険的なことをすると危なっかしくて見ていられない人は保育者に向かない	0	5	24	32	5	4	3.7
① 幼児は、担任の影響を受けやすい	23	20	21	2	4	0	2.2
② けんかには、すぐに介入しやめさせるべきだ	0	0	5	27	25	13	4.65
③ 厳しいしつけより、自由にさせる方がよい	4	9	33	19	3	2	3.2
④ 保育者への向き・不向き(適性)はある	16	33	16	4	1	0	2.15
⑤ 子どものけんかは、見守る方がよい	2	15	40	13	0	0	2.91
どんな人間になるかは生後の経験や教育次第	6	25	25	11	2	1	2.72
⑥ 保育者には同学歴・同年齢の人より高い給料が支払われるべきだ	1	3	14	37	12	3	3.92
放任よりも厳しくしつける方がよい	0	1	11	35	18	5	4.21
乳幼児期に身につけたことは大人になっても変わらない	4	16	39	8	2	1	2.87

表2の①～⑥は、表3の①～⑥に対応

表3 小学校教育についての考え

質 問 文	評価段階ごとの人数 n=70						平均
	そ う 思 う			そうは思わない			
	非常に 1	かなり 2	まあ 3	あまり 4	ほとんど 5	全く 6	
学級崩壊は幼稚園や保育所または家庭に責任あり	1	5	36	19	5	3	3.44
① 小学生は担任の影響を受けやすい	14	27	23	6	0	0	2.3
② けんかを見つけたら、すぐにやめさせるべきだ	0	1	11	39	13	6	4.17
③ 厳しいしつけより、自由にさせる方がよい	0	6	22	35	6	1	3.62
④ 教師への向き・不向き(適性)はある	23	29	14	4	0	0	1.98
⑤ 子どものけんかは、危険でなければ見守る	2	11	40	13	3	1	3.1
いじめは、教師は少しでも早くやめさせるべきだ	15	20	20	11	3	1	2.57
⑥ 教師には同学歴・同年齢の人より高給料を	3	5	17	32	8	5	3.74
いじめは、いじめられる方に原因がある場合もあるので、見つけてもしばらくは見守る	1	2	8	28	13	17	4.46
入学前に、文字や数はある程度学んでおくことが必要だ	2	11	38	12	2	4	3.18
小学校では学力を身につけることが何より大切だ	0	4	8	37	16	5	4.14

表4 幼児教育と小学校教育についての考えの比較

質 問	幼 児 評価 (SD)	小学校 評価 (SD)	t値
① 担任の影響を受けやすい	2.2 (1.23)	2.3 (0.79)	-0.74
② けんかを見つけたら、すぐにやめさせるべきだ	4.65 (0.75)	4.17 (0.72)	5.37***
③ 厳しいしつけより自由がよい	3.2 (1.03)	3.62 (0.67)	-4.08***
④ 保育者、教師には向き、不向きがある	2.15 (0.80)	1.98 (0.76)	1.65
⑤ けんかは危険でなければ見守る	2.91 (0.51)	3.1 (0.75)	-2.33*
⑥ 保育者、教師には他の職より高給を払うべき	3.92 (0.84)	3.74 (1.26)	1.89

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

表4から、「けんか」と「しつけ」について、保育と小学校教育で、異なる判断をしていることが分かる。「けんか」については、幼児の場合の方が「すぐに介入すべきである」とは考えていない($t=5.37, p < .001$)。同じく「けんか」について、幼児の場合の方が「危険でない限り

見守る方がよい」と考えている($-2.33, p < .05$)。この結果から、幼児のけんかより、小学生のけんかは好ましくないと考えていると判断できる。

また、「しつけ」については、小学生に対する方が「自由にさせるほうがよい」とは考えて

いない ($-4.08, p < .001$)。

「他の職業より高い給料が払われるべきか」については有意差はなかったが、小学校教諭について肯定する傾向が見られた。

(5) 保育者として大切な資質と (6) 小学校教諭として大切な資質

「保育者として大切な資質」と「小学校教諭として大切な資質」の質問と記入は、相互に独立した判断ができるように、別個の用紙で行った。

表5には、各資質が、保育者と小学校教諭にとってどの程度大切だと考えられるか比較するため、t検定の結果を示した。(なお項目11は質問に不備があり表から削除してある。)

検討した結果、教育大生は、保育者と小学校教諭に求められる資質に違いがあると考えていることが分かった。

保育者よりも小学校教諭の方に大切だと考えられているのは、「専門的知識」、「研究心」、「正

義感」、「信念」、「威厳」、「厳しさ」、「思慮深さ」、「まじめさ」、「運動能力」、「礼儀正しさ」、「独創性」の11項目であった(いずれも有意差あり)。これに対して、保育者の方に大切だとされたのは、「育児経験」、「絵が上手」、「素直さ」、「明るさ」、「世話好き」、「ピアノが上手」、「手先の器用さ」の8項目である(いずれも有意差あり)。有意差のあった項目を見ると、保育者の方には明るく、製作や音楽で遊ぶ資質が求められ、小学校教諭の方には、専門性や威厳など堅苦しいイメージの資質が求められていると言える。「運動能力」が小学校教諭の方に、より強く求められているのは、体育の授業を意識しているからであろうか。

また「ピアノ」に差が出たのは、小学校では音楽の専門教諭が担当することが多いためだと考えられる。

どちらにも同程度にかなり大切だとされたのは、「根気強さ」、「健康」、「思いやり」、「積極性」、「我慢強さ」、「協調性」、「寛大さ」、「思考の柔

表5 保育者と小学校教諭にとって大切だと考えられる資質の比較

資質	保育者(SD)	小・教諭(SD)	t値	資質	保育者(SD)	小・教諭(SD)	t値
1 専門的知識	2.14(0.96)	1.91(0.74)	2.71**	16 世話好き	2.32(1.18)	2.61(1.16)	-2.98**
2 育児経験	2.94(1.01)	3.52(0.97)	-7.31***	17 厳しさ	2.75(2.75)	2.25(2.25)	4.58***
3 根気強さ	1.5(0.39)	1.44(0.36)	0.81	18 思慮深さ	2.47(1.00)	2.25(1.03)	2.30*
4 絵が上手	3.5(0.92)	4.04(1.23)	-5.54***	19 ピアノ上手	3.15(1.00)	3.85(1.42)	-5.95***
5 研究心	2.51(0.92)	1.91(0.77)	6.69***	20 まじめさ	2.98(0.79)	2.55(0.85)	4.08***
6 健康	1.55(0.48)	1.47(0.45)	1.28	21 運動能力	3.07(0.99)	2.74(0.88)	3.12**
7 正義感	2.44(0.88)	2.1(0.81)	3.44***	22 礼儀正しさ	2.28(0.85)	2.10(0.79)	1.95**
8 優しさ	1.48(0.60)	1.62(0.49)	-1.92	23 我慢強さ	1.81(0.68)	1.78(0.61)	0.43
9 信念	2.01(1.02)	1.68(0.62)	3.38***	24 協調性	1.86(0.76)	1.82(0.70)	0.59
10 思いやり	1.37(0.35)	1.54(0.71)	-1.93	25 独創性	2.47(1.10)	2.21(1.08)	2.17*
12 素直さ	2.34(0.86)	2.51(1.11)	-2.28*	26 楽天性	2.6(0.88)	2.6(1.14)	0
13 威厳	3.5(1.15)	2.54(1.20)	8.38***	27 寛大さ	1.74(0.65)	1.71(0.55)	0.33
14 明るさ	1.46(0.39)	1.65(0.61)	-2.33*	28 思考柔軟	1.48(0.45)	1.51(0.48)	-0.32
15 積極性	1.74(0.67)	1.67(0.58)	0.89	29 手先器用	2.92(1.19)	3.42(1.14)	-3.71***
10, 14, 22, 23, 24, 25はn=69。他はn=70				30 共感性	1.78(0.86)	1.84(0.97)	-0.75

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

軟性」,「共感性」の9項目であった。

(7) 自己観

① 保育に関する,今の自分の自己評価と② 小学生の指導に関する,今の自分の自己評価
①と②の結果を表10に示した。全ての文は「私は...と思う」という形で提示されており,①の保育に関する文と②の小学校教育に関する文は番号ごとに対応しているが,①の文と異なる②の表現は()に示した。ただし14については①と②の両方の文を挙げた。

全項目について 小学生に対する指導の方が,保育の場合より上手に対応できそうだと考えていた。有意差があった項目は,「1 分かりやすい指導」,「2 適切な課題」,「3 時間割変更への対応」,「13 遊びの指導や援助」であった。しかし「15 環境構成」以外の14項目は評

価が3~4点台であり,「今の自分」が小学生に対しても,必ずしもうまく指導できるとは考えていないことが分かった。「5」だけは値がマイナスであるが,「ほとんどの子どもが理解できるように働きかけることは無理」という文であるから,小学生に対するほうが「無理ではない」と考えていることになる。

③ 子どもの行動を見てどう思うか

少子化が進み,子どもと日常的に接することは少なくなっても,生活のさまざまな場面で,子どもを見かけたり,何らかの関わりが生まれたりする。そのような場合,どのような気持ちになるかを表11に示した。その結果,どの場面でも平均点では子どもに対しては肯定的である傾向が見られた。特に「2 微笑みかけなくなる」は,69人が全員が「そう思う」方を選択し,「3 迷子」に対しては70人全員が「助けたく

表6 今の自分の力量:3~6歳児と小学生の指導に関する自分の力量の自己評価

質 問 文	自己評価 (SD)		t 値
	対 幼 児	対 小 学 生	
1 子どもに分かりやすく指導することができる	3.75 (0.85)	3.3 (1.16)	5.06***
2 子どもの能力に応じた課題を出せる	3.77 (0.67)	3.22 (0.72)	6.01***
3 一生懸命努力しても登園(登校)を嫌がる子どもをなくせない	3.72 (0.89)	3.51 (0.88)	1.27
4 保育の日案(時間割)が急に変更されても,うまく対処できる	3.15 (0.74)	2.84 (0.83)	2.94**
5 ほとんどの子どもが理解できるように働きかけることは無理だ	3.78 (1.01)	3.9 (0.75)	-1.15
6 クラスの子ども一人ひとりの性格を理解できる	3.35 (0.78)	3.22 (0.72)	0.95
7 やる気のない子どもにやる気を起こさせることは難しい	3.85 (0.96)	3.75 (1.05)	1.04
8 どの年齢(学年)の担任になってもうまくやっていける	3.37 (0.90)	3.27 (0.92)	1.09
9 私のクラスにいじめがあったとしても,うまく対処できる	3.7 (0.64)	3.67 (0.77)	0.49
10 保護者の信頼を得ることができる	3.27 (0.80)	3.22 (0.90)	0.62
11 子どもの状態が不安定なときにも適切な対処ができる	3.4 (0.56)	3.24 (0.53)	1.89
12 クラス全体に眼を向け,集団への配慮も十分できる	3.38 (0.73)	3.2 (0.71)	2.26*
13 子どもひとりひとりに適切な遊びの指導や援助を行える	3.45 (0.80)	3.05 (0.72)	3.68***
14 ①園で子どもに基本的な生活習慣を身につけさせることは難しい ②学校で子どもに礼儀や行儀を身につけさせることは難しい	4.13 (0.93)	4.07 (0.77)	0.43
15 子どもの活動を考慮し適切な人的・物的な保育環境(学習環境)を整えることに十分努力できる	2.74 (0.74)	2.62 (0.90)	1.23

注1:ここで幼児とは3~6歳の子どもを指す

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

表7 子どもの行動を見てどう思うか n=70

質 問 文	評価段階ごとの人数 n=70						平均
	そ う 思 う			そうは思わない			
	非常に 1	かなり 2	まあ 3	あまり 4	ほとんど 5	全く 6	
1 乗り物の中，赤ん坊の泣き声はうるさく思う	1	2	13	18	24	12	4.4
2 子どもを見るとにこにこ微笑みかけなくなる	49	16	4	1	0	0	1.38
3 迷子を見ると助けたいくなる	38	21	11	0	0	0	1.61
4 バスの中，気分の悪そうな子どもを見ると席を譲りたいくなる	32	26	10	2	0	0	1.74
5 家に小さい子どもがいると，うるさく思う	2	2	8	13	23	22	4.7
6 誰とも遊べないひとりぼっちの子どもを見ると，一緒に遊んであげたいくなる	21	29	15	3	0	2	2.11
7 小さい子がうまく話せないのを見るといらいらする	0	0	2	14	33	20	5.02

なる」方を選択した。

どちらかと言うと冷淡な反応を示す回答もあったが，子どもとの経験不足のため，関わり方が分からないということであろうか。

4 ま と め

教育大の学生のごく一部を対象とした調査であるが，保育と小学校以上の教育に対する考え方の違いが示された。全体の印象としては，学生たちの多くは幼児や保育職の中身をあまり理解していないようである。保育者にも「研究心」や「独創性」が必要であるし，「正義感」も大切である。保育者は子どもとなんとなく遊んでいるばかりではない。小学校（以上）の教育に携わる人たちも，幼児期の大切さを知り，保育の仕事の実態を知ると，子どもの姿をより深く的確に捉えることができるようになるのではないだろうか。また，保育者にとっても，卒園した子どもたちの学校生活を知ることは，保育を

深める上で意義深いことだと考えられる。幼小連携が強調されている現在，保育者と小学校以上の教師の相互交流が，養成の段階から必要ではないだろうか。なお今後は幼児教育学科の学生にも，同様の調査をしたいと考えている。

参考文献

- 川村登喜子編著：子どもの共通理解を深める保育所，幼稚園と小学校の連携，2001，学事出版
- 大滝まり子，佐藤信雄：幼児教育学科学生の保育者観，子ども観と自己認識（2），2003，北海道文教大学短期大学部研究紀要第27号
- 戸田まり，大滝まり子，佐藤信雄：保育実習による学生の子どもイメージの変化，2000，日本発達心理学会第11回大会発表論文集

謝 辞

質問紙の改訂にあたり、北海道大学留学生センターの関道子教授にご教示を戴きました。また、調査の実施にあたり、北海道教育大学札幌校の戸田まり助教授のご協力を戴きました。心より感謝申し上げます。